

シンボルとなっている和池の大カツラの木。根元からコンコンと美しい湧水が流れ出している。



白

6月15日(日)村岡町のハチ北高原
近くにオープンする『但馬高原植物
園―瀨川平―』は、約17ヘクタール
という広大な土地を活かした植物
園。愛称は『オーバーラントガルテ
ン』、ドイツ語で『高原にある庭園』と
いう意味。シンボルとなっている泉

指定天然記念物・和池の大カツラ
は、幹周約16メートル、すぐ上流
から出る大量の湧水をまたいで立つ
巨木です。その姿は神聖な雰囲気
が満ち、とても神秘的。
但馬は寒い地方の植物が生育する
南限であり、暑い地方の植物の北限

といわれるように、自生する植物の
種類も豊富。『但馬高原植物園―瀨
川平―』は、その地の特徴を活用し、
野性種と園芸種の草花とをバランス
よく配置した、これまでにない新し
い感覚の植物園です。
瀨川平の立地条件をうまく利用し

然

自然の息吹を感じたい
『但馬高原植物園―瀨川平―』オープン
新しい感覚が試される時

が

ているので、自生する木をほとんど
切らず地形もさわっています。植
生を活かした湿地・修景池にはミソ
ハギ、オタカラコウ、キキョウ、ザ
ゼンソウなどの在来種に加え、ミズ
バショウ、カキツバタ、クリンソウ
などが植栽されています。湿原の散
策道は尾瀬や上高地のように板張り
で、自然を大切に考えて整備されま
した。
また、ムラサキサギゴケでグラン
ドカバーされたコニファーガーデンは

東屋が点在し、ゆっくりと鳥の声などを楽しみながら休憩できる。頬をすり抜けていく風が心地よい。新緑の季節も良いが、紅葉もまた、すばらしい情景を描き出す。



植物園入口にある「ヒュッテ フルネル」のレストラン。季節ごとにどんな料理を出してくれるか、とても楽しみです。



ピンク色が可憐なタイツリソウ。



6月後半から7月はじめが見ごろのアスチルベ。



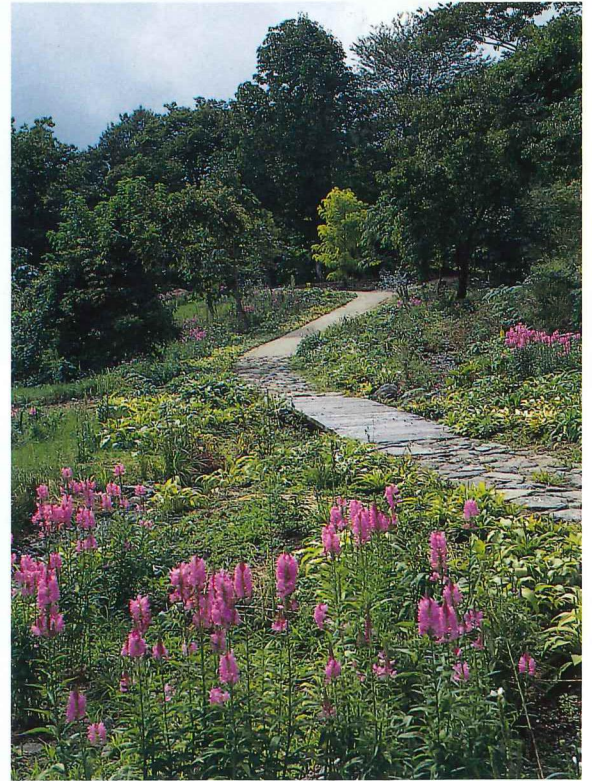
ひときわ黄色が鮮やかなオタカラコウはもとも自生していた植物。8月下旬から10月はじめまで植物園を彩る。

お盆にはオミナエシ・キキョウなどが咲き乱れる。



洋風針葉樹の庭園。自然林の中の歩道にはエビネランやヤブラン、ナルコユリなどが咲き、夏にはたくさんのカブトムシ、クワガタをはじめとする昆虫や蝶、小鳥たちが姿を見せてくれます。

他にも、植物園入口にある「ヒュッテブルネル」のレストランでは季節の旬の料理が盛りだくさん。秋にはキノコがいっぱい、冬の料理が予定されているようです。草花の種苗を販売するアトリウム、園芸教室が開かれる管理棟などの施設があり、園内3カ所に東屋が設けられ、ゆつくり休憩しながら楽しむことができます。



園内は尾瀬や上高地のように板張りの散歩道が続く。

植物園は、身近な地域の自然に親しくふれあえる場として、さらに都市住民の憩いの場、町と都市との相互交流の場として誕生しました。たくさんの人々に来てもらい、愛される植物園としていくため

積み重ねています。高原植物園と銘打って人を呼ぶ以上、美しい景観とともに訪れる人々の期待に応えるだけの多種多様な植物を季節を通して、維持管理していくことも重要なこと。そこで、町内の園芸愛好家の皆さんが花をつくり、園内の草取り、植え替えなどにも関わっています。

植物園の近くには、世界の木の文化と出逢える自然学習館「木の殿堂」や瀬川溪谷などがあり、自然を活かしたエリアとして相乗効果が期待されています。

ていきます。新緑も紅葉も山々全体で表現し、演出してくれます。四季折々、訪れるたびに違う姿で、私たちを迎えてくれることでしょう。

に、村岡町の人々はいろいろな試みと努力を

現在、直営の温室では、専門家の指導のもと高原植物の苗の育成にも

初夏にむけて、ハナショウブ、アスチルベ、ノリウツギ、ギボウシなどが咲きそろう頃、木もれ陽の中を散歩してみませんか。おいしい空気を胸いっぱい深呼吸。季節が移り変わるごとに草花たちも彩りを変え

但馬高原植物園——瀬川平——
入場料 大人500円(400円) 中・高校生400円(320円) 小学生100円(80円)
()内は30名の団体及び身障者割引料金
開園時間 午前10時～午後5時(入園は午後4時まで)
夏期は開園時間が延長されます。冬期は休園。
☎0796(96)1187 国道9号兎和野高原交差点～木の殿堂の西1km

元気印
のまちたち 1
The town is in high spirits

い

つ

ば

い